

## 実行団体報告

NPO 法人ノッポの会

介護予防生活支援拠点「花カフェ」は2017年3月末にふれあいサロン、生活相談、生活支援型訪問サービス、各種参加型イベント（麻雀、カラオケ、健康教室、写経、裁縫、映画会、体操、認知症カフェ等）を中心に近隣住民の生きがい作りの場としてUR都市機構尾上団地内に開設しました。尾上団地や近隣の県営住宅、マンションにお住まいの高齢者を中心に過去には年間約8,000人の利用実績がありました。しかし、ここ数年は新型コロナウイルス感染症予防の為、緊急事態宣言中や近隣の感染状況を踏まえてサロンを閉鎖する状況が続いていました。常連の参加者からはサロン再開希望の声が非常に多くあり、また、団地内の老人会や自治会関係者などから現在の生活状況を聞き取ると、「家から出ない時間が増えて足腰も弱くなった。」「サロンが閉まっている為、家にいる時間が多くなり話し相手もいなくなったので気分が落ち込んだ。」などの声などもありました。

しかし今までのようなサロン形態では多人数の集合となり、コロナウイルス感染症等にかかる危険性があった為、with コロナに対応した感染症予防を主とする新たなサロンを再開し、近隣住民が安心安全に利用できるコミュニティづくりの場を提供する必要性がありました。

そこで3密を避ける為に少人数短時間制を導入し、新たな感染予防対策として今回の助成金を活用し、AIロボット「ラボット」を導入しました。

AIロボット「ラボット」は特別何かできる機能は備わっていないのですが、全身に50個のセンサーやカメラが備え付けられており、頭上のカメラで4m以内にいる人の相手の顔を1000人認識することができます。ご利用者が後日花カフェを利用された場合に過去に認識した情報で、ラボットから近づいて甘える様な表情や仕草をしたりします。

また、こちらから声をかけると甘えた表情で近づいてくる為、一人でご利用されている参加者も癒される存在となっております。

コロナ禍前は密な状態で沢山のご利用がありましたが、ラボットを購入時に団地内の掲示板で宣伝をしたおかげもあり、少人数や1人で来られる新規の高齢者の利用も増えることができました。

今では閉じこもりがちで安否確認が取りづらい独居高齢者もラボットに会いにサロンを利用されるようになり、学区内にある地域包括支援センターの見守り支援員とはサロンが安否確認の場として機能している為、良い連携も取れるようになりました。

また、サロン再開時は、3密など不安な面が多くありましたが、近隣住民の皆様一人ひとりが、感染予防への意識も高く、少人数や短時間で利用されるようになり、大きなトラブルもなく、継続して営業できております。

今後も引き続き、感染予防対策を万全にし、ラボットなどをうまく活用し、気軽に立ち寄れる地域の居場所作りの場になればと思います。